夕刊
磐城新聞
四月十三日發行
定價 一ヶ月 金六十五錢 郵税 金五錢
廣告料 普通 一行 金九十錢 特別 一行 金六十錢
編輯印刷兼發行人 柏木哲
發行所 磐城新聞合資會社
振替東京一〇八五五六五番
（日曜祭日翌日休刊）

西國巡禮記

島田忠夫

三

雪の後の山上の朝は莊麗である。殊に宿院の二階からは、叡山坂本口の麓まで見おろし琵琶湖も又一望のうちにある。朝雪をふんで根本中堂へ再び詣る。もう顏見りゆゑ、番僧が笑顔で迎へる。短歌を五首ばかり作る

宗務廳から佐々木玄峯師が來られ、間もなく今井祐申師から電話で、新たに依頼したき用事が出來たから夕刻、ちよつと下山して欲しいと云ふ。けふは終日、繪の仕事をする。佐々木師が傍で、いろ／＼と六ヶ敷い天台宗の教義やら、考證やらを訓へて呉れる

午後、小閑を得て『敎學新聞』の歌をつくつて發送して貰ふ、私の世話をする宿院の役僧は桑原順澄といふ若い坊さんで、上毛沼田の人だ。沼田へは昨日中も數度遊んでよく知つてゐるので、仕事の暇によく話し合ふ。夕食後、下山することにして、あわただしく宿院を發つ。桑原氏と・・も一人の役僧が送つて呉れる

今井氏邸へ、佐々木師も來て私を待ち受けてゐた。新たな仕事は明日やることにして、とに角今晩は飲みませうと云ふ話。叡山學院の學生の小虎君が訪ねて來た『傳道新聞』へ私の談話が欲しいと云ふので、少し喋る。それからカットを五枚許り、待つて貰つて描く

燈台

梅澤武一

小山の向ふに
陽が落ちて
濱の燈台
廻り出す
父さま母さま
寢た後に
そうつとお眼めを
醒ましたら
くるくるぴつかり
光つてた

4月14日

△楠正成の千早城總攻撃始まる（元弘三）△左院、右院を廢し元老院大審院を置く（明治八）△高杉晋作逝く（慶應三）△石川啄木逝く（明治四五）△アメリカ南北戰爭北軍の勝利に歸す（一、八六五）△タイタニック號、氷山と衝突沈沒す（一、九一二）

寄贈書目

△ローマ字四月號（一部金二十錢、東京市麹町區丸の内三の一二帝劇事務所內ローマ字ひろめ會）

講談

贈作山江名町長　珠雲 小野務平

自治夙晃濟時功
努力偏期美有終
君有利刀人己識
縱逢盤錯意融々

熊谷企見子遺稿

柏木哲（抄）

三

○暗夜の海釣する人のあかりぬらし、波間にゆらぐ灯し火のかげ
○君を待ちたゞずむ門に夕闇の、おとづれ早く風立ちにけり
○奥津城にしみ／＼思ふうつそみの、いやそのはてのはかなきことを（亡友）
○教職を退きて嫁ぎし友はまたもとの、職にぞいそしむと聞く
○金の爲人につかはれ老の身を、□子にもすがれぬものかはれなり
○朝からの用事を終へてつかれやゝ、おぼえて歸る夕暮時を
○感激のなみだぞ湧きぬ凱旋の、兵士に交り軍馬そこばく
○闇の夜のゆききになやむ背戸みちも、こよひはのかに雪あかりして
○斷崖にあやふく立てる老松の、かげをくだきて波寄するなり
○樂隊の通りしあとを廣告の、ビラ追ふ子等のあまたつゞけり

妖刀流轉（ようとうるてん）

（61）　邑井貞吉演　佐々木今吉畫

呪ひの兇刄（五）

こんな草深い田舍家に居る女とは思はれぬ言葉付きだから、傳五郎も□□□□つたが

傳『アア左樣で御座いますか、お女房さんた一人の所では押して御無理も申せますまい、あゝ困つたになつたなあ』

と云ひながら雨戸の隙間へ、目を近づけて見ると寢衣姿もしどけなく□佇つぽい美い女、これぞ藤作に落籍された板橋のお紋と云つたらお解りでせうが

草深い大和田の一軒家、これが農民藤作の住居で留守番の女房は藤作が根引をして板橋から連れて來た宿場女郎上りのお紋といふ、即ち般若の權次の情婦でございます

亭主が留守だから泊める事は出來ないといはれ折角疲れた足を休めようとあてにして來ただけに傳五郎も失望したが、主人もゐない若い女房一人の所へ泊まらうといふ譯にも行かない

傳『どうもそういふ次第では據ござりませんが、もしお女房さん、これから人家のあります方へはどう參つたらよろしうござりましようねえ』

聞かれてお紋は當惑體

『そうですねえ、何にし私しも此家へかたづいてまだ四五日、ちつとも外へ出ませんから一向近所の樣子もわかりませんが、何でもそこの土橋の所を眞直にいらつしやると宿の方へ出られるそうですよ』

『左樣でござりますか、それではまあ行つて見ましよう、どうも大きにおやかましうございました』

紋『お氣の毒樣でしたわね』

傳『どういたしまして』

すた／＼傳五郎は土橋の方へ行く。お紋は又座敷へ上つた樣子

土橋の所まで來た傳五郎が、何思つたか足音を忍ばせ再びソツとお紋の家へ引つ返しましたのは、そこが惡漢の傳五郎、面と打つかつてお紋の顏を見た譯でもないのだが今の擧動で早くも何か睨んだものと見へます

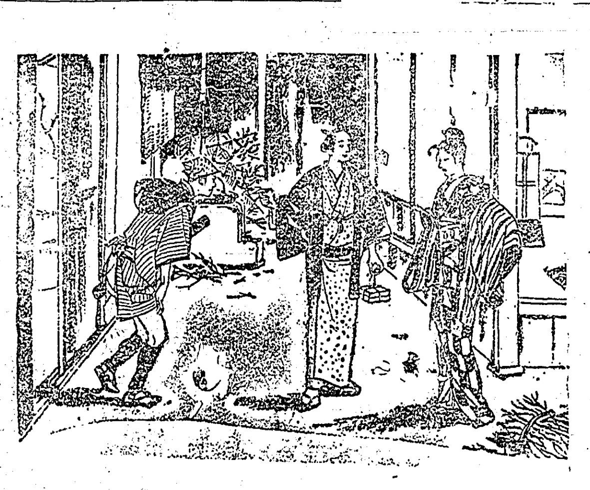
家の前まで引つ返したが今度は表を叩かない、拔足さし足廻つた裏手、見ると物置樣の粗末な小屋があつて中に藁が積んであります

その物蔭へ身を潜ませ家内の樣子を窺つてゐると些とも知らず、誰も居ない私一人といつた家の中にひそ／＼と話し聲が聞ゆ、而も相手は男の聲だ

傳五郎暗中ににたりと凄い笑を洩らし、尚も聞き耳を立てゝゐると、やゝあつて裏口の戸がそつとあいて出て來たのは頰被りをした、どうやら若い男らしい、お紋はだらしのない姿で出て來ましたが

紋『どうしても歸るのかえ、泊つて行つたつていゝぢやないか』

○『いけねえ、いけねえ、泊つて行くなんざあ飛んだ事だ、そうでなくてせえ今宿六が歸つて來やあしねえかと、びく／＼そは／＼迚も落ついちや話も出來ねえ始末だ、今夜は歸らねえから大丈夫々々と、お前あ頻りに受合つてゐるけれど、油斷は出來ねえ盜み食ひ、今も今であの旅の男に表戸をどん／＼叩かれた時は俺は飛上る程吃驚して壽命が縮まる程の思ひをしたぜ宿六でなかつたからいゝようなものゝ、もし歸つて來た



改築御知せ

春だ、花だ、花は櫻だ
といふ此季に……
おでん呑兵衛では
改築致しました！。
どーぞ舊に倍し可愛がつて頂けます。
おでん呑兵衛
平町田町末廣隣り

洋服は高島屋
中等學校男女學生服
小學校男女學生服　特價提供
男女小店員　洋裁見習
今年小學卒業者御希望の方は御來談下さい。
注文並に既製品
高島屋洋服店
平町二丁目電話三八六番

肺病ロクマク

其徵候としては原因なくして肩がこるとか胸が痛むとか、寢汗が出るとか、輕くて機續する『セキ』をするとか、体重が月々著しく減ずるとか、顏色が段々蒼白くなるとか、朝より午後になると輕度の熱が數日以上續く場合
感冒又ハ流行性感冒の後久しく疲勞不快の感覺を脱せざる場合には『ゼヒ』一二週間位服用して下さい、必ず御滿足を得る事と信じます、今迄に全快せられし御方は數多く御座います。
此藥は他の藥店にありません。
價一週間…三圓　二週間…五圓五十錢
ハイロクノール代理店
常磐線植田町
安田屋藥局
電話一〇三番

平病院
平町警察署側（電六四一番）
院長 醫學博士 鈴木定藏
內科　院長 醫學博士 鈴木定藏
小兒科　部長 醫學士 木下基一
一般內科 一般外科（内臓外科）　部長 醫學士 横山喜俊
產婦人科 一般外科 皮膚泌尿器科　部長 醫學士 池谷宗三郎
レントゲン科 物理的療法科　醫學博士 鈴木定藏　技師 岡田重德
藥劑科　部長 藥劑師 吉本孝平
◎診療時間　每日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）
往診隨時（急患ハ此ノ限リニアラズ）
病室完備……入院隨時〔自炊ノ便アリ〕

豆炭、コールタール販賣
一、品川豆炭
大袋 五貫匁入 金七十五錢也
小袋 壹貫匁入 金二十錢也
壹袋カラ配達致シマス、ドウゾ御注文下サイ。
一、コールタール一本（十五キロ入）金九十五錢
一本ヨリ配達致シマスカラ是非御試メシ下サイ。
電話三七番
平驛前
阿部石炭店

夜間診療
胃腸 內科 胃腸病科
性病 花柳病科 性病科 皮膚科
專門
(見習看護婦募集)
松村性病胃腸科醫院
(平町南町電話一〇七番)

はねつぎ
桑原柔道整骨院
平町公園下
電話六七四
神經痛ニ　リウマチスニ　オレンヂパスタ

吸入用酸素　純度99%
度量衡　モノサシ マス ハカリ
計量器　体温器 寒暖計
◎ガ・ノ御用・・・
關內藥局
電話四〇番

諸機械製作販賣
合名會社 田邊製作所
平白銀町（驛前通）電話二九四番
機械切各種歯車製作

壯年、老年の方　飲酒家、肥滿體の方　血壓をお測り下さい
當店では皆樣のために標準血壓計を設備致し御自由に御使用願ふやうに致しました
血壓降下藥として又それの放任に依つて起る中風動脈硬化、腦溢血、神經衰弱等の最も恐る可き老衰病の豫防並に治療劑として
プロナウン
の効果、當店の信用に懸け確固たる自信のもとにお勸め申上ることの出來る製劑
定價 ¥1.50 ¥3.00 ¥5.00 ¥10.00
福島縣平町田町
阿部藥舖

鮫川砂利採取及販賣
砂利…川部村沼部
砂利採取揚場…山田村法田
玉石…植田鮫川橋下
貨物自動車運搬業、有價證券、株式債券賣買及仲介、商品依托販賣、千代田生命、千代田火災保險代理店
常磐線植田町
植田物產株式會社
取締役 山崎登
電話三一番
各種貨物一般及重量機械類運搬取扱
石城郡錦村中田
植田物產錦出張所
電話（植田）一三五番

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁　安積中學より約五丁
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
入院隨時
院長 醫學士 金森五郎

お試下さいましたか
今評判のよい食堂の
家庭食とランチを
大衆食堂 京樂
平町銀座通り
從業員チツプ心付等一切カタクおコトハリ致します。

平町南町五二
根本產婦人科醫院
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
（入院隨時）

舌頭に火を吐かせて 言論の布陣勢ひ立つ

各候補の準備全く整ふ

戰雲は動く

政府の『自覺の一票、時局の認識、滅私奉公』に對して一方『暗い官僚明るい政黨』『卑怯な解散雄々しい國民』と其の狙ひ處こそ異なれ、畢竟するに所謂當正選擧から一歩を出でられぬ今次の逐鹿戰は、斷じて言論、文書の二戰術以外にない、縣下一の混戰地として比佐、鈴木の兩前、星元の三代議士の梟雄が鼎立する第三區では既に去る十日第一聲を擧げた星派を筆頭に鈴木派今十三日から、比佐派明十四日から夫々猛烈な言論布陣に漸く選擧氣分の濃度を增さんとしつゝあるが各派の演說日割次の如くである

鈴木派 (十三日)鹿島 飯野 神谷 (十四日)夏井 高久 沼の内 豊間 江名 (十五日)中三坂 下市 澤渡 合戸 大利 (十六日)大野 四倉 大浦 平窪 (十七日)高野 箕輪 内郷白水 湯本 (十九日)磐崎 平 玉川 小名濱 江名 (二十日)久の濱 廣野 富岡 新山 (二十一日)日立木 磯部 新地 飯豊 中村 原釜 (二十二日)渡邊村 釜戸 同田部 植田 泉 (二十三日)勿來第二 川部 錦 勿來第一 (二十四日)小川 御厩 綴 湯本 (二十五日)内郷第三 好間 内郷第二 (二十六日)田人石住 入遠野 上遠野 (二十七日)田人第一 山田第一 同第二 (二十八日)双葉郡上川内 下川内 請戸 大堀 浪江 苅野 原釜 (二十九日)平町世界館 内郷昭和館 好間好樂館 渡邊小學校 永井同

比佐派 (十四日)桶賣 川前 (十五日)赤井 小川 箕輪 内郷二ヶ所 (十六日)渡戸 澤渡 上三坂 中三坂 (十七日)下三坂 差鹽 永井 (十八日)合戸 大利 飯野 好間 (十九日)磐崎 渡邊 大浦 四倉 久の濱 (二十日)川部 山田 神谷 平 (二十一日)入旅人 大平 勿來 植田 (二十二日)石住 藤原 上遠野 入遠野 (二十三日)荷路夫 黑田 踊田 大日本炭礦 (二十四日)豊間 高久 夏井 草野 (二十五日)鹿島 玉川 宮 湯本 (二十六日)大野駒込 同玉山 小名濱 江名 (二十七日)長倉 小野田 白水 (二十八日)錦 泉 平窪 (二十九日)赤井 平 内郷

星派 (十四日)久の濱 富岡 大野 新山 (十五日)浪江 原の町 (十六日)小高 磯部 飯豊 大野 中村 (十七日)草野 神谷 飯野 夏井 (十八日)鹿島 江名 豊間 高久 御厩 (十九日)好間 綴 四倉 (二十日)廣野 木戸 龍田 (二十一日)藤原 湯長谷 渡邊 泉 湯本 (二十二日)入遠野 入定 上遠野 同瀧 石住 田人 山田 (二十三日)下永井 合戸 澤渡 渡戸 好間今仁井田 (二十四日)下小川 大野二ヶ所 大浦 四倉 (二十五日)川前 下小川 赤井二ヶ所 (二十六日)富岡 浪江 原町 中村 (二十七日)小名濱 湯本 内郷 平 (二十八日)植田 川部 勿來二ヶ所 植田 錦 (二十九日)四倉 好間 平 小名濱

在軍分會 選肅協議

郡下在郷軍人分會長會議を十三日午後一時から平第三小學校に開き縣支部の方針に基いて選肅を協議した

天候に惠まれて 本社主催 警察博賑ふ けふ桃の節句に蓋開け

歴史的幾多の獵奇資料を網羅して本社主催の警察博は愈よけふが蓋開け、天氣はよし忠魂祭に桃の節句が重なつて近郷からもドッ!と出た人の群、午前九時よりだつたが都合で開場は午後となり第一日を終つたが愈よ花滿開ともなれば一層の賑ひを呈すであらう

勤續役職員 郡農會で表彰

郡農會では十一日の農會記念日をトし午前十時から平團体事務所に左記十一年度郡下村農會役職員の表彰式を擧行した

山田遠藤孚一 同下山田單太郎 飯野伊藤淺之助 同森山豊次 豊間鈴木藤次郎 同山野邊茂五郎 磐崎磯上忠馬 同佐久間覺 泉鈴木盛壽 下小川組合遠藤金作 錦秋山清一 小名濱菅原彌作 同武菊治 平渡邊佐七 上遠野鈴木爲之助 遠藤喜三郎 波木井玄旨 四倉須藤恭吉 同田島安吉 平窪小野清 同新妻一男 大野馬上豊 高久鈴木喜太郎 同猪狩久男 好間小野松彌 同鈴木徹彌 入遠野鈴木儀作 草野渡邊重彌 内郷齊藤彌一 田人組合緑川芳文

平磐 聯合消防檢閱延期

管内聯合消防檢閱は既報の如く來る十九日磐中グラウンドで行はれる筈であつたが總選擧に際したので來月に延期された

步道にプラタナス 役場前鋪裝愈よ着工

平驛前から才槌小路に至る町道の鋪裝工事は新年度事業として愈よ來月早々着工する事となつた 延長百八十四間で步道、車道を區別する、車道は幅員四間、步道は一間半乃至二間で車道より幾分高くし約六十本のプラタナスを配して精彩を添へる、鋪裝面積は步道三百七十四坪、車道七百五十坪でこの工費五千圓

電話開通申込 六十九口に上る

平局で受付けてゐた電話特別開通申込みは今十三日で締切つたが正午迄の申請は六十九口、十年來の申込み殺到である 今月末抽籤を行ふ筈だが取付はこのうち一五・六口である

選擧は選擧、花は花 書き入れで張り込む紅燈街

景氣好轉!の嬉しい前奏曲から藝妓屋並に料理屋等が一番當て込んでゐたのが今花見季である、既報の如く揃ひの衣裳や豪華な演藝場を設けて張り込んでゐた矢先きに生憎この選擧騷ぎにかゝつたのでスッカリ當てが外れてしまつた、それにどうした事か昨今田町界隈『五人以上の花見は當局の届けがいるんだ』とのデマが頻りに傳へられて居り、さらだに選擧騷ぎに祟られてゐる折柄だけに紅燈街は少からず弱りきつてゐる、右の風聞に關し平署當局では次の如く語つてゐるんだから選擧をよそにしたお花見なら先づ大いにやつてわが世の春を謳歌すべし!である

——夫々自由意志に基くもので當局としては何等干渉すべき性質のものではない、然し選擧に際しての不純なものは勿論取締る方針である

磐炭役付のお花見 =十九日第二公園で=

咲いた、咲いたぞ!、きのふの雨でまだ三分咲きだつた松ケ岡の櫻はパッ!と咲き競ふた、この分ならば丁度滿開時だらうと云はれてゐた十八日の日曜までは持つまいと『觀櫻會』の準備にあわて出した方面もある 明後十五日の納稅組合表彰式から恒例による磐城炭礦役付聯合の大觀櫻會は十九日午後一時から第三公園で開かれる事にきまつた、何せ大世帶だけに盛會を豫想されてゐる

天氣豫報 小名濱測候所發表

今晩は北東の風晴後薄曇 明日は東の風曇後雨模様

日立から約六百名(來日曜日)

園内の町役場吏員詰所に屆けられた親櫻團体の其後の分左の如く十八日の日曜日に日立製作所から入り込む一團こそ先づ以てお花見の最豪華版だ

△十三日—綴上田炭礦三十名 平軍友會百名 日本電氣會社八十名 老兵會三十名 △十四日—才槌小路七十名 河田鐵工場八十名 △十五日—納稅組合百二十五名 靴同業組合四十名 △十六日—運輸會社八十五名 △十七日—平靑年團四百五十名 田町三十名 △十八日—日立製作所三百名 同郡交會百五十名 製鑵係六十名 同山手工場六十名 同旋友會五十名 紺屋町靑年團三十名 南町靑年團四十名 六七丁目三十名 △十九日—磐炭勞務課四百五十名 古河鑛業所七十名 田町靑年團七十名

在天の英靈永へに安かれ けふ忠魂祭の盛典

絶好の櫻陽氣に惠まれて 松ケ岡、人で埋まる

軍神大越中佐以下の英靈を祀る松ヶ岡公園の恒例忠魂祭典は桃の節句のけふ午前九時半から催された

祭文(神、佛式)青沼支會長 藤田在郷軍人聯合分會長の祭文に次いで第二師團長 縣知事 步兵第二十九聯隊長 福島聯隊區司令官 石城郡在郷將校會長 武德會平分會長 平軍友會長 大日本國防婦人分會長等の祭文あり終つて司會者、遺族傷兵、町内中、小學校生並に各種團体の拜禮で滯りなく式を終つた

青沼町長祭文

櫻花咲き初むる松ケ丘々上忠魂碑前に於て不肖絡太郎石城郡民一同を代表し謹て忠誠勇武なる故陸軍步兵中佐正六位勳四等功四級大越兼吉氏以下戰死病歿者諸士の英靈に告く

惟ふに我國交りを外に修めて茲に七十年其間聖戰を交ゆること數次に及ぶ而して事の大小自ら別ありと雖も等しく帝國安危の岐るゝ國難ならさるはなし、此秋に當り諸士は勇躍軍に從ひ邪惡を膺し、炎暑に耐へ、疫病來り迫るも顧るに暇なく糧は飢を凌く能はす水は渇を醫するに足らさるも敢て意とせす堅忍不拔夜を以て晝に代へ奮戰力闘朝に一城を屠り夕に一壘を陷れ嚮ふ所敵なく每に大捷を博せり、嗚呼壯なる哉而して諸氏或は砲烟彈雨の中に斃れ、或は病で異域に歿す、其忠勇懦夫を立たしめ其義烈鬼神をも泣かしむ、爾來我國威八紘に輝き國權四表に伸ぶ之れ固より上 聖明の御稜威の然らしむる處なりと雖も亦諸士等盡忠報國の士か、死を鴻毛の輕きに比し身を以て國難に殉したる賜と謂はさるへからす、嗚呼諸士生きては國家を泰山の安きに置き死して皇威を六合に洽からしむ、諸士奉公の志以て達せりと謂ふへきなり且つ夫れ上は畏くも 元帥陛下親しく諸士の靈を祭らせ給ひ、官民老幼亦相携へて諸士の忠魂を慰む、諸士死して餘榮ありと謂ふへく以て瞑すへし

今や盟邦滿洲國は國礎愈よ堅く國運益々進暢し帝國との親善極めて敦厚を加へつゝありと雖も、方今帝國は非常の時艱に際會し諸士の忠烈なる遺勳を追慕すること愈よ切なり、本日茲に清酌庶羞の典を以て恭しく在天の英靈を祭する、尙くは照鑑を垂れ賜はんことを

龍虎相搏つ熱戰展開 爛漫たる花の下で けふ忠魂祭武道大會

けふの忠魂祭を彩る武德會平分會主催の武道大會は午前十一時から第一公園廣場で行はれた

參加は劍道百六十名、柔道三十名、弓道三十名、銃劍術十餘名で磐中、平商の學生軍も出場

櫻花の下、龍虎相搏つ熱戰を展開午後四時頃終了した昨年の劍道優勝は豊間(優勝旗獲得) 個人試合で優勝刀を獲つたのは第三校大々能一(有段)平商磐崎久次郎(無段)の兩氏である

陽春の京洛から

今回[illegible]天皇御像護持、洛西嵯峨天龍寺守護神八幡宮へ奉納開眼式に列席仕候、此八幡神社は龜山天皇の信仰を厚うせし石清水八幡社の分神に有之天龍寺は天皇の離宮に御座候

赤堀信平

憂鬱な赤字續きから一轉漸增步調に入る 本月上旬の送炭統計

常磐の出炭高が近來兎角減少の步調を辿り乍らも各社の最大努力により漸次正常の能力に還元されんとしつゝある旨既報の通りであるが去る一日以降十日迄の統計によると

營業用四、六八四車六〇、〇三九噸 省用一、二二六車一六、三九四噸 合計五、九一〇車七六、四三三噸

で昨年同期に比し使用車の關係から營業用の車數に於て百九十二車を減少し乍ら數量に於ては却つて三百五十三噸を增してゐるので省用の減十一車三百二十五噸を差引き結局車數の百八十一車減と反對に數量は僅か乍ら二十八噸の增を示してゐる

見習記者採用

十八才以上、中等學校卒業、明朗ナル青年、希望者ハ履歷書送レ、面會日通知ス

福島民報平支局 平町田町五〇

お米が高くなつた!

昨十二日行つた石城販聯の俵米定期共販は出荷千四百五十七俵で不調一俵もなく相場は最高大野二號の十二圓二十三錢で前回に比し一躍二十錢の高値を呼んだ

凍氷仲買人組合總會

濱三郡凍氷仲買人組合第四回總會を今十三日午後一時から平町マルトモホールに開き木村縣製氷組合理事長等臨席終つて谷口樓で懇親會を催したが出席多數盛會であつた

平區判決二ツ

◆大野村八莖鑛山の内妻斬り、同鑛坑夫前科五犯萩田新之助(四二)はけふ平區野木判事から求刑二ヶ月に對し罰金五十圓の言渡し

◆未亡人宅に忍込んだりしたエロ漢——草野村泉崎農猪狩義一(三六)はけふ平區石合檢事から求刑十ヶ月、言渡しは十四日

投石で大怪我

内郷村磐炭町田坑新山繁(一九)假名、同丹野賊幸(一九)の兩給仕同志は昨十一日同村茶根地内第三公園で他二三友達と石投げに興じ中、新山の投げた一石が誤つて丹野の頭部にあたり、其時は左程とも思はなかつたが今十三日に至り俄然發熱重態に陷つたので平署から係官出張前後の事情取調べ中

十四日(小名濱測候所發表)

滿潮 前五、〇〇 後七、一〇 干潮 前〇、二〇 後—

舊三月四日 水曜 新四月十四日 辛未 赤口 四平 壁宿

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 稍衰運に向はんとするものなれば萬事自重▲二黑 進退去就共に警戒を要する日移轉旅行凶兆▲三碧 財貨亡失の恐れあり投資開店等見合すべし▲四綠 かんげん用ひられず強ゆれば爭論を避けがたし▲五黃 安心ならぬ氣運にて大望を企つる時は失敗▲六白 事の難易に係はらず心配りを要する注意日▲七赤 幸慶ゐ大なる日▲八白 企業開店建築造作轉宅等吉 分外の望を起せば却て平凡なる日とならん▲九紫 [illegible]の如く行はれて喜悦を招き繁榮の兆

互融會事業近況

報告(昭和十二年三月中)

融通口數 三九口
滿期拂戾口數 一七口

事業報告 三月末

會員數 六、五七七口
世帶數 四、四四戶
積立金 六五、五三三、一〇
融通口數 一、五六六口
融通金額 九三、五〇五、一七
融通金回收額 二八、三三五、一〇
滿期拂戾口數 四五口
滿期拂戾金額 二、〇二五、〇〇

一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日稅立金ノ獎勵
一、小資本金ノ相互融通

太平火災海上保險株式會社平中央代理店

石城中小商工互融會

事務所 福島縣平町揺槌小路一番地

小名濱方部 小名濱町古港 湯本方部 湯本町天王崎 菊田方部 相双支部 原町東一番町

生花教授

池ノ坊 生花を懇切丁寧に御敎授いたします、お遊びがてら御出で下さい。

平町四丁目和泉屋旅館

須藤まつの

當學舍長大和田豐吉豫而病氣療養中ノ處十一日午前四時逝去仕候間此段謹告候也

追而來ル十四日午後一時ヨリ午後二時マデ當學舍ニ於テ校葬ヲ以テ告別式ヲ相營ミ申可候

尙御通知漏レモ可有之、本紙ヲ以テ御通知ニ代ヘ候

四月十一日

平町 磐城佑賢學舍

嗣子 大和田忠良

卒業生各位